

NEWS LETTER

No.62 October 2017

タイ上院公衆衛生委員会視察団来日： 日本における高齢化対策事業と現状視察

ジェット・シラソラノット タイ国上院公衆衛生委員長・人口と開発に関するアジア議員フォーラム (AFPPD) 事務総長を団長とする、国会議員7名を含む計16名が、我が国の高齢化対策事業への取り組みと現状を視察するために来日しました。9月25日、東京都福祉保健局高齢社会対策部を訪問し、粉川貴司部長を表敬し、続いて社会福祉法人東京弘済園（三鷹市）を訪問しました。



東京都：福祉保健局

まず最初に、ジェット団長より、「高齢化社会が叫ばれて久しい日本の対策を知り、現状を視察する事で、タイの高齢化対策に役立てたい」との訪問趣旨の説明がありました。

続いて粉川部長より、日本が世界に例を見ない高齢化を経験していることを踏まえ、都の掲げる高齢社会対策事業について、『東京都高齢者保健福祉計画：平成27年度～29年度』に沿って説明がなされました。その中で、「東京都でも、すでに高齢者が全人口の2割以上を占めており、高齢化の進展が急速であること、さらに都市という特性から独居老人が増加していることから、都の政策の重点項目として、介護サービス基盤の整備等が急務となっている」と説明があり、さらに「少子高齢化という言葉の通り、高齢化対策に加え、少子化対策も同時平行して行う必要があります、しかもスピードを持ってなされなければならない」と強調しました。

参加者からは、総予算の内、福祉に充てられている割合はどのくらいか、またその財源確保はいかにするのか、消費税増税等で賄うのか、という質問が出ました。福祉予算は、都の予算の約2割を占めていること、そして増税以前に、まずは現在問題となっている廃棄薬剤の削減対策等、無駄の削減が必要である、との見解が示されました。

社会福祉法人 東京弘済園

次に、三鷹市に移動し、特別養護老人ホーム、ケアハウス、養護老人ホーム、ケアセンター、地域包括支援センターに加え、養老一体施設として保育所も要する総合福祉施設である東京弘済園を訪問しました。

東京弘済園では、最初に、田中潔 常務理事・園長／JR東京総合病院外科部長より、「同園は高齢者福祉に寄与するべく、1955年鉄道弘済会により設立され、当初の1施設から徐々に拡大を続け、現在では高齢者向け6施設と幼児向け1施設の計7施設となり、デイケアを含め1日およそ400人を受け入れ、地域に根差した活動を展開している」と、沿革並びに事業概要の説明がなされました。



タイ視察団からは、この施設に対して、政府からの補助の有無、土地購入、所有者等についての質問が相次ぎ、担当者から、補助は一切なく、民間機関として自立して運営に当たっている、との回答がありました。

その後、2時間近くにわたり施設見学を行い、各所の責任者から概要説明を受けました。利用者の平均年齢は80歳を超えており、視察団と直接所利用者の方々が交流する場面も見られました。視察団は、特に費用負担の在り方について関心が高く、多岐にわたる日本の年金制度と介護保険制度の関係に関して、現場担当者と詳細な質疑応答がなされました。

保育園の壁には、第二次世界大戦後初めてタイより寄贈され、アジアゾウの国内最長飼育記録を打ち立てながらも、2016年5月26日に亡くなった三鷹市の井の頭自然公園の〈象のはな子〉の写真が掲示されていたため、はな子のお話を始め、日タイ友好関係に話がはずむ場面もありました。

参加者からは、日本の高齢化対策事業の概要を知り、介護の現場をつぶさに目の当たりにすることで多くを学ぶことができた、という感謝が述べられ、上院公衆衛生委員会での議論に有効活用したいとの意向が表明されました。



国際人口問題議員懇談会（JPFP）事務局
（公財）アジア人口・開発協会（APDA）
TEL: 03-5405-8844
FAX: 03-5405-8845
E-mail: apda@apda.jp
Website: <http://www.apda.jp>

JPFP 入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。